

氏名 高尾 彰  
授与した学位 博士  
専攻分野の名称 医学  
学位授与番号 博甲第 4254 号  
学位授与の日付 平成22年12月31日  
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻  
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Indications for ureteropyeloscopy based on radiographic findings and urine cytology in detection of upper urinary tract carcinoma  
(上部尿路上皮癌の診断における、画像所見と尿細胞診を用いた腎盂尿管鏡検査の適応に関する検討)

論文審査委員 教授 吉野 正 教授 金澤 右 准教授 児玉 順一

### 学位論文内容の要旨

我々は、上部尿路上皮癌の診断のために積極的に腎盂尿管鏡検査を行ってきた。最近12年間で100例以上を経験し、適応を検証したので報告する。

1997年から2008年までに、上部尿路上皮癌を疑い腎盂尿管鏡検査を受けた124人129症例を対象とし、尿細胞診と画像診断にて4グループに分類した。グループA(8例)は尿細胞診、画像診断共に陽性、グループB(4例)は尿細胞診陽性、画像診断陰性、グループC(55例)は尿細胞診陰性、画像診断陽性、グループD(62例)は尿細胞診、画像診断とも陰性で、患側尿管口より肉眼的血尿を認めたものとした。

結果、グループAは全例に癌を認め、グループBは小さな癌を1例と生検にて上皮内癌を3例認めた。グループCとDはそれぞれ33例(60%)、4例(6.5%)に癌を認めた。

腎盂尿管鏡検査は尿細胞診陰性症例において、上部尿路上皮癌の発見と悪性疾患除外に有用であった。しかしながら、尿細胞診、画像診断共に陽性症例においては不要と思われた。

### 論文審査結果の要旨

著者らは上部尿路上皮癌の診断のため腎盂尿管鏡検査を12年間で100例以上施行した。124人129症例を対象とし、尿細胞診と画像診断で4グループに分類した。グループA(8例)は尿細胞診、画像とも陽性、B(4例)は尿細胞診陽性、画像診断陰性、C(55例)は尿細胞診陰性、画像診断陽性、D(62例)は両方とも陰性で尿管口より出血を認めたものである。腎盂尿管鏡検査の結果グループAは全例に癌があり、Bは小さい癌を1例、上皮内癌を3例認めた。グループCDはそれぞれ33例(60%)、4例(6.5%)に癌がみとめられた。腎盂尿管鏡検査は細胞診、画像診断とも陽性例では適用する必要はないが、細胞診陰性例において上部尿路癌の発見と悪性疾患除外症例に有用であった。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、上部尿路癌に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。